



愛媛県立新居浜病院  
院長 酒井 堅

本年度は本院が診療を開始して60年、東予救命救急センターが開設されて20年の節目を迎えます。人間にたとえるなら還暦と成人を迎えることになりました。

今回の新居浜病院ニュース（特集号）は、当院の理念である「地域から信頼され、必要とされる病院」、所謂かかりたい病院、地域にあって欲しい病院を目指した先人達のご尽力に感謝するとともに、更なる発展を祈念して発行することとしたものです。

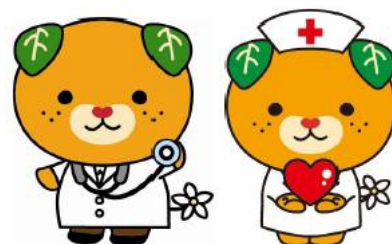
地元の新居浜市長さん始め、自治会長さん、地域の関係機関から叱咤激励や温かいエールをいただきました。

また、今回、当院が多くのボランティア等の皆様に支えられていることを知りました。担当医と患者さんの関係を越えて当院をご支援いただいていることに敬意を表しますとともに、本当にありがたく、紙面を借りて厚く感謝を申し上げます。

平成24年現在、15の診療科で一般診療を行うと共に、二次・三次の救急対応、周産期医療、僻地医療や災害救護支援を行っております。

今後、先人の方々が築いていただいた病院をさらに充実させ、安心して安全な医療を提供し、地域に必要とされる病院づくりを目指し、またそうであり続けるよう努力してまいります。

どうか今後とも新居浜病院を支えていただきますようよろしくお願い申し上げます。



愛媛県イメージアップキャラクター  
みきゃん

### 特集号の目次

1 院長挨拶 . . . . . P1	6 ボランティア応援団雑感
2 センター長感慨 . . . . . P2	① 県立病院句会と短冊 . . . . . P8
3 新居浜市長祝辞 . . . . . P3	新聞記事（灯排句会） . . . . . P9
4 看護学校長感謝の言葉 . . . . . P4	② 清掃ボランティア . . . . . P10
5 救急隊現場雑感	7 思い出
① 四国中央市消防本部 . . . . . P5	① 地元自治会長の思い出 . . . . . P11
② 新居浜市消防本部 . . . . . P6	② 売店を振り返って . . . . . P12
③ 西条市消防本部 . . . . . P7	③ 医療スタッフの思い出 . . . . . P13
	8 各科診療予定表 . . . . . P14



救命救急センター長  
武田 哲二

### 東予救命救急センター開設20周年

皆様方の温かいご支援、ご協力により愛媛県立新居浜病院が今年開設 60 周年に、また東予救命救急センターも開設 20 周年にあたり、感謝の意を込めてこれまでの経緯について簡単に述べさせていただきます。

愛媛県立新居浜病院の救急医療業務の開始は昭和 47 年 6 月の救急病院の指定に始まり、その後、昭和 52 年 7 月に救急医療対策事業の実施要綱が示され、一次（初期）救急医療体制、二次救急医療体制の確立、病院群輪番制二次病院群の発足などに伴い、愛媛県立新居浜病院も二次救急病院として地域の救急医療に積極的に関わってきました。そして、平成 4 年に東予地域の三次救急医療を担うため東予救命救急センターが開設されました。

東予救命救急センターの病床数は ICU6 床、HCU14 床で、東予地域として四国中央市、新居浜市、西条市及び今治市の一部、30 万～40 万人を背景人口とする三次救急医療圏を対象としてその三次救急医療施設としての役割を担い、現在では年間のセンター受診患者数 2000 名前後、センター収容患者数 1100 名前後となっています。

また、当院は災害拠点病院、臓器提供施設に指定されており、平成 19 年 2 月 13 日には全国で 51 番目、愛媛県では初の脳死判定、臓器提供が行われました。

救急医療活動には病院前救急医療が欠かせませんが、東予救命救急センターは各消防機関の救急救命士の養成過程における実習、救急救命士の再教育のための実習を行う研修施設としての役割を担い、また現場の救急救命士の医療活動に対する常時指示体制、事後検証体制などのメディカルコントロール体制において東予地区メディカルコントロール協議会の中心的役割を果たすよう努めています。



このように愛媛県立新居浜病院では救命救急センターを中心に救急医療を行っていますが、医師、看護師の絶対数が少ないこと、救急医療に不可欠な診療科が確保できないことなどの問題を抱えています。

全国的にも医師（勤務医）不足、救急医療圏の広域化、集中化、高齢者の増加、救急医療のコンビニ化などによる救急医療の増加が現実に見られ、救急医療に携わっている医師にさらなる負担が生じています。そのような状況の中でいかに効率良く、良質な医療を提供し、医療関係者が疲弊せず、救急医療から撤退しないようにするための方策を地域全体で今後も探っていかなければならなくなっていると思います。

これらの問題に対して東予救命救急センターとしてできることには限りがありますが、地域の救急医療を疲弊することなく担えるよう努力していきたいと考えています。



## 愛媛県立新居浜病院本院開設60周年及び 救命救急センター開設20周年記念行事を祝して



新居浜市長 佐々木 龍

愛媛県立新居浜病院本院開設60周年及び救命救急センター開設20周年誠におめでとうございます。

新居浜市民を代表いたしまして心からお喜び申し上げます。

県立新居浜病院は、昭和28年に愛媛県立新居浜療養所として開設、昭和40年に愛媛県立新居浜病院に名称変更以降、地域医療の充実発展のためご尽力をいただき、平成4年には東予地域の救急医療の最後の砦となる東予救命救急センターが開設、平成23年には東予地域の周産期医療の要となる地域周産期母子医療センターが開設されました。

県立新居浜病院は、開設以来今日に至るまで、新居浜市民はもとより東予地域の住民にとりまして、高度な医療施設と優秀な医師・スタッフによる二次・三次救急医療施設として、期待は誠に大きく、健康保持及び保健医療の向上に多大な貢献を頂いておりますことは、まことにご同慶にたえず、県立新居浜病院の皆さまの熱意とご努力に対しまして、敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。

本市におきましては、平成23年4月に「あかがねのまち、笑顔輝く産業・環境共生都市」を目指す都市像とした「第五次長期総合計画」をスタートさせました。この中で、「誰もが健康で、生きがいと安心感のある暮らしの実現」を目指し、救急医療体制の維持・強化と地域医療の確保を重点事業として計画を進めております。

しかしながら、急速な高齢化の進展とそれに伴う疾病の慢性化・複合化が進み、健康を取り巻く状況は大きく変化しております。近年、医療技術の高度化とともに、市民の医療ニーズの多様化に加え、医師不足が深刻化しており、医療体制が崩壊の危機に直面していると申しあげても過言ではありません。

こういった現状のなかで、本市といたしましては、救急医療対策協議会や地域・医療・行政が一体となった救急医療体制維持確保検討委員会活動において、医療体制整備の方策や市民に対する適正受診啓発等を積極的に推進し、市民が安心して健やかな生活を送ることができるよう努力しているところでございます。

県立新居浜病院酒井院長様をはじめ、医師、看護師、病院関係者の皆さまには、今後におきましても、地域医療の向上と市民の健康保持のため、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、開設60周年を契機といたしまして、今後ますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



愛媛県立看護専門学校  
校長 武田眞理子

## はじめに

県立新居浜病院開設60周年という記念すべき新居浜病院ニュースへの投稿の機会を頂いた。60年前といえば、保助看護（S23）や日本看護協会（S26）が設置され、今日の看護の基礎が作られた時代である。それから、需要の増大に伴う看護職員の不足の時代を乗り越え、看護は活動の場と役割の拡大の時代となった。新居浜病院（以下病院）の看護もそのような時代を背景に、多くの人たちがどのような英知を織り込み、その歴史を今日に受け継いできたのだろうと、思いをはせる。

当校は、平成9年に開校、今年で16年目を迎えた。病院には、開校当初より非常勤講師の派遣や看護臨地実習（以下実習）の受け入れなど、甚大な協力と支援を頂いてきた。非常勤講師は現在、看護領域を除く専門基礎分野科目の47%（14名）にも及び医師および薬剤部、リハビ

リ部門の方々に、また最近では、看護スペシャリストと呼ばれる認定看護師等にも講義を頂き、専門知識獲得と学習意欲の向上に尽力頂いている。

今回の投稿では、病院の方々の助言・指導を受けながら、実習で成長する学生の学びの一部を伝えようと思う。

## 【新居浜病院における臨地実習体制】

実習は、東城看護専門学校も実習施設である。そこで、実習運営は、定期的の実習運営協議会を開催し、看護部と2校で協議しながら進めている。しかし、学生の長期休暇を除けば年間を通じての実習で、病棟スタッフには大変な負担をかけている。特に実習指導の責任者として各病棟の次席さんには学校と病棟の調整役として大きな役割を担って頂いている。

当校は、学生が初めて看護の現場を知ることになる1年次の基礎看護学実習、2年次で本格的に看護過程を展開する老年看護学実習、そして、3年次最後の実習である統合実習と、特に要所となる実習をお願いしている。統合実習を除けば、一人の患者を受け持つ実習体制であるが、在院日数の短縮や、患者の権利擁護のため受け持ち患者選定には苦慮し、看護長さんや次席さんに患者・家族への同意などご足労を掛けながら、学生は貴重な看護体験をさせて頂いている。



## 【学生Aの臨地実習での体験と学び】

2学年のAは、がん終末期で腹膜播種により下半身浮腫著明な患者を受け持った。下肢浮腫による苦痛を何とか軽減したいと下肢リンパマッサージを計画。しかし、教員からAの計画では皮膚損傷の危険性が強く実施は困難と指導された。Aは、学生カンファレンスで他学生からの意見も求めたが効果的で安心できる方法は見出せなかった。諦めきれないでいるAの状況から、教員は「指導者に相談してみても」と提案。Aは早速、病棟看護師に相談。相談を受けた看護師は、

しばらく考えた後、皮膚排泄看護認定看護師に連絡。認定看護師は状況をすばやく分析し、クリームを使用する方法を計画。学生と共に実施した。患者は「気持ちよいね、またしてくれ」と笑顔を見せたという。

Aは重篤な患者の症状に混乱したことだろう。当初、学習対象者であったら患者に、毎日関心を寄せ受け持つうち、一人の人間として受け止めるようになり、看護者として役立とうと努力するようになっていく。そのことは、もてる技術・知識では追いつけない状況の中でも諦め切れないでいる状況からも察しがつく。Aのこの体験を、豊かな看護体験



としてつなげていったのが、今回、教員であり看護師である。また、認定看護師は、学生に確かな知識と技術の素晴らしさを体験させてくれた。そして、最後に見せた患者の笑顔こそが、学生に改めて看護の魅力を体感させてくれている。

## おわりに

実習は学生にとってこれ以上ない豊かな学びの機会である。学生は各々の関心を抱き、それぞれの体験をし、看護の手を差しのべずにはいられない体験もし、それぞれに成長している。また、学ぶ者のまわりには、教える者がいて、支える者がおり、共に学ぶ者がいる。教育は「共育」と言われる、病院とよく連携しながら未来の看護師を育ててゆきたいと改めて実感した。

## ① 四国中央市消防本部

四国中央市消防本部 山中 道裕

この度、県立新居浜病院本院開設 60 周年及び東予救命救急センター開設 20 周年を迎えられること、心からお慶び申し上げます。

東予地域に三次救急医療機関が開設され重篤患者を受入れていただいておりますことは、救急活動に従事する我々救急隊員にとってどれほど心強いことかわかりません。仮に東予救命救急センターが開設されていないと想定した場合、当市の救急活動における重篤患者の病院照会におきまして多くの受入困難事案が発生し、尊い生命が救命できなかったと思われま。この場をお借りし、感謝の気持ちを表明させていただきますと共に、当市救急活動における諸問題とお願いを述べさせていただきます。

まず、三次救急である東予救命救急センターを、二次救急の県立新居浜病院として病院照会させていただいていること。四国中央市西部の土居町は、新居浜市と隣接し多くの住民が新居浜市内の医療機関のかかりつけであるゆえ、救急現場において新居浜市内の医療機関への搬送を強く希望され、病院照会をおこなっています。救急搬送は圏域内二次救急医療機関への搬送を優先したい旨を、患者及び家族の方々に説明するのですが理解していただけない場合が多々あります。

この事による問題点のひとつに、医療機関側と住民側の「かかりつけ医療機関」のとらえ方に相違があると考えられます。ひとつの疾病において県立新居浜病院に通院中である場合、他の疾病及び怪我等においても必ず診療していただけるとの概念が、住民の方々にはあるようです。このような場合、医療機関側が「かかりつけ患者」と認識されていない旨をお話しても



納得してもらえず、救急隊員が病院照会させていただいておりますことを、ご理解いただきたいと思ひます。

また、数年前より東予救命救急センターには整形外科医師が不足しており、三次救急医療機関対応の重篤な外傷患者の受入れが困難であり、救急現場において病院照会に時間を要し、現場を離脱できない事案が発生しています。これらのケースにおいては、他県である香川県観音寺市の医療機関等に受入れ照会し搬送に到っておりますが、救急隊員にとっても大きなストレスとなっています。松山市方面の三次救急医療機関への



の搬送を考慮できないかとの声もありますが、東予の東部に位置する当市からの搬送時間を懸念し、照会に至っていません。

私たちは東予地域の最後の砦である東予救命救急センターに整形外科医師の充足をさせていただきたいと切に願っています。

これら問題の根源である「医師不足」が解消され、東予地域住民の救命システムが構築される事を望みますとともに、我々救急隊員もより一層のレベル向上に取り組みたいと考えておりますので、今後ご指導よろしくお願ひいたします。

## ② 新居浜市消防本部

新居浜市消防本部 藤田 展弘

県立新居浜病院開設 60 周年及び東予救命救急センター開設 20 周年を迎えられましたこと、病院関係者の皆様方に心よりお祝い申し上げます。

東予救命救急センターの開設は、東予地域における救急医療体制の充実に欠かせないものであり、新居浜市に救命救急センターが開設されたことを大いに喜んだのが、昨日のことのように思い出されます。

また、救急救命士が誕生したのもこの時期であり、消防における新しい救急は、救命救急センターの力添え無くしては語れないものであります。



消防に勤務する救急救命士は、必ず病院実習でお世話になり、その研修をとおして、知識や技術の習得はもちろん、関係者皆様の顔と名前を覚えることで、円滑な救急活動を目指してまいります。

かく言う私も、病院実習で一月間お世話になり、当時の三谷センター長、近藤副総婦長、越智婦長はじめ、職員

の皆様方にご指導いただきました。ご承知のとおり、消防という職場は男性だけで 24 時間寝食を共にする関係上、研修をさせていただいた ICU、オペ室での女性の多さに威圧されたことや、今ほど交流の無い時でしたから、顔と名前を必死で覚えたのが今でも鮮明に思い起こされます。

今後も新人の救急救命士が引き続き研修させていただきますが、ビシバシと鍛えていただき、組織こそ違いますが、本当の意味での顔の見える関係を構築し、地域にお住まいの皆様方の安全と安心に貢献できればと考えております。

終わりになりますが、県立新居浜病院と東予救命救急センターの更なる発展を御祈念し結びといたします。



### ③ 西条市消防本部

西条市消防本部 石川 克也

県立新居浜病院開設60周年、東予救命救急センター開設20周年に際し、心からお祝い申し上げます。

平素は、二次並びに三次の救急病院として、生命にかかわる突然の疾病等に24時間、365日対応して頂き、厚くお礼申し上げます。

当消防本部エリアには現在、二次救急病院が6病院ございますが、その日の救急体制、時間帯や救急重複、また、傷病者の状態によっては、管内病院だけでは、対応困難な場合もあり、新居浜・西条圏域の「最後の砦」として、貴病院を選定させて頂けることは、救急に携わるものとして本当に心強い限りです。



また、ICLSやAEDセミナーをはじめ、各種研修会の中核施設としてもご尽力いただき、救急救命士・救急隊員にあっても知識・技術を習得する貴重な学びの場所としての位置付けも、皆一同に感じているところであります。ご承知のとおり今後は、少子高齢化の急速な進展、全国的な医師不足、夜間救急における救急医療体制の維持等、東予地域におきましても例外ではなく、非常に厳しい状況が待ち受けていることと存じますが、どうぞ、今後とも、地域

の中核病院として、また三次救急医療を担う広域基幹病院として、益々のご発展を、心から願っております。

今後危惧されている東南海・南海地震等の大規模災害に対しましても、地域の災害拠点病院として貢献され、災害地への医療投入という立場での「DMAT隊」



は、地域住民としましても、非常に心強く思っているところであります。

救急に携わる消防職員として、住民から信頼され、安心して住みよい街づくりに貢献するという観点からも、共に歩み努力してまいる所存ですので、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます、結びの言葉といたします。





## ① 県立病院句会と短冊

県立新居浜病院句会発足者 中川節子(節女)

今年は、県立新居浜病院の開設六十周年、そして救命救急センターの開設二十周年という記念すべき年です。この病院の開設に添う形で、院内で「灯」俳句会が発足されて六十年となります。また、看護婦(師)会の俳句会も平成元年に発足し二十四年目を迎えました。



節女さん 田坂代表

この看護婦(師)会の俳句会は、県立新居浜病院での句会ということで「県立病院句会」と名付けさせていただき、患者、家族、付添い者、看護師等、誰でも自由に学べる句会として開始さ



れました。当時の「灯」俳句会の主宰であった中川青野子先生に教わることで、会員の皆さんの熱意・意欲が回を重ねるごとに強まり、月に二回の句会がもたれました。句会ではいつも看護師と患者の和やかな触れ合いがあり、皆さん顔見知りで、真剣な中にも和気藹々とした雰囲気の中で学ぶことができました。

「県立病院句会」は十年近く県立新居浜病院の会議室で行われていましたが、職員の退職者が一年一年と増え、病院の外部の方や退職した

職員の参加が多くなったことで、中萩公民館に会場を変更し現在に至っております。会場は変わりましたが、病院句会の理念や活動意義にはなんら変わりありません。  
私は、俳句はマラソンのようなもので、その時々自分の状態に合わせて、あきらめずに作り続けることが大切だと思っております。「灯」の皆さん、そして「県立病院句会」に参加する皆さんは、志を高く掲げ、心豊かに自己の輝きを増したいと願いつつ、粘り強く作句に励んできました。そして、毎月の句会の一句は、少しでも患者の皆さんの安らぎになればと念じて、県立新居浜病院内のロビーに短冊を掲げさせていただいております。



今後も「県立病院句会」を継続し、参加する皆さんが更に各界、各層に広がり、ますます活動が盛んになることを念じております。そして、地域の句会のあるべきお手本として、このような活動が日本中に広がっていければと思います。



◆ 新聞記事 - 灯俳句会 - ◆



- ◆ 当院への趣味などを通じた御支援
- (団体)
- ◆ 俳句を通じた支援  
灯俳句会：代表 田坂清太
  - ◆ 絵画を通じた支援  
グループ円花：代表 加藤禮子
  - ◆ 清掃ボランティア  
天理教新居浜支部：支部長 田村久徳
- (個人)
- ◆ 折り紙を通じた支援  
岡田ミチ卫 (新居浜市)
  - ◆ 盆栽を通じた支援  
深川政秀 (四国中央市)
- (敬称略)

派」と田坂代表は力を込める。自由に個性を發揮するが、通底するのは命を中心にしたこと。「結核が死に至る病だった時代。俳句は患者を支える力だった」と田坂代表は実感している。

光もちはじむ元朝の小石たち 青野子 病院内から外部へ広がった会員は現在約140人。毎月、新居浜、西条、四国中央市など16カ所で句会が催されている。「これまで会員の中から選者を選び、皆で運営してきた。新居浜から生まれた俳句、自分を励ます俳句を引き継いでいきたい」。来年の60周年に向け、会員らは決意を強くしている。

(大植美香)

「愛媛新聞社提供」

長年にわたり御支援をいただき、本当に感謝申し上げます。





## ② 清掃ボランティア



天理教新居浜支部  
支部長 田村久徳

こんにちは。天理教新居浜支部です。このたび当機関誌への投稿の機会をいただきましたので、少し私たちの活動、特に新居浜病院における清掃活動についてご紹介させていただきます。

私たち天理教新居浜支部は「感謝・慎み・たすけあい」を合い言葉に、日頃、地域の皆様とともに様々な活動を行っていますが、当県立新居浜病院敷地内での除草や清掃は、同院開設以降と思われるが、もう何十年間にも及ぶ私どもの恒例活動です。毎年4月下旬頃に行っていますが、みなさんの中にも、私たちの活動の場を見かけたことがある方々もいらっしゃると思います。

この活動は、「全教一斉ひのきしんデー」と銘打って開催しています。毎年国内で約 1,500 会場、海外でも東南アジアをはじめ、中南米、オセアニア、ヨーロッパなど各地において繰り広げられ、老若男女問わず約 15 万人の方々が参加されます。今年はこの活動が提唱されてちょうど 80 年目の節目の年を迎えました。

「ひのきしん」とは、漢字を当てはめるなら「日の寄進」となります。日々神様によって結構に生かされている感謝の気持ちがこもった行いや態度を「ひのきしん」とよんでいます。当病院におけるこの清掃活動も、形自体は清掃ボランティアと同じですが、参加される皆さんは、内には日頃の健康に感謝し、喜びいっぱいので活動されています。



本年4月29日、当病院での活動には180名の方々が参加下さいました。更には、休日にもかかわらず病院の職員さん方も大勢お集まり下さり、おかげさまで賑やかに和気藹々と活動させていただきました。

今後も、地域のみなさまとつながりあって、当病院での活動を始め、様々な活動に取り組んで参りたいと思います。

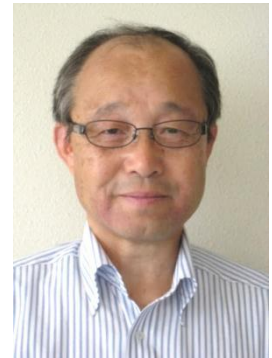
最後になりましたが、このような機会を下さいました関係者の方々に感謝を申し上げますと共に、みなさま方の益々のご多幸を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

## ① 地元自治会長の思い出

このたびは県立新居浜病院開設60周年を迎えられます事、誠に  
おめでとうございます。

また、東予救命救急センター開設20周年も併せて迎えられます  
こと重ねてお慶び申し上げます。

さて昭和28年に本院開設以来、今日まで地域医療の中核として  
地域住民の医療や救急患者の方たちのために、昼夜を問わず救命に  
携わって頂いた病院関係・医療スタッフの皆様には地域を代表して、  
衷心より有り難く厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を表し  
ます。



中萩校区連合自治会  
会長 三並 保

思えば戦後まもない時に、私ども新居浜市中萩地区に本院が開設され地域住民の期待と安心感  
の中、地域医療のスタートが切られる事になりました。当時としては、まだまだ十分とは言えな  
い医療設備の中、医療スタッフの皆様の献身的な治療看護のもと多くの患者の方が健康を回復さ  
れ日常生活へと復帰をされました。私も子供時代に、何度か母親に連れられ近所の方のお見舞い  
に行った記憶があります。当時は病院の敷地内は木々が生い茂り病棟も木造平屋建て、敷地内  
には松林があり、その松林のベンチで母親との方が会話をする間、周辺を駆け回り遊んだ思い出  
が昨日の様によみがえります。

時代の変遷とともに北隣には東予地区保健所が建設され、その建物は現在では県立新居浜特別  
支援学校となり、その後、体育館や運動場も整備され、本年は新校舎の建設も始まると聞いてお  
ります。平成22年には学校の西隣に中萩きらきら公園が建設され地元住民をはじめ多くの市民  
の憩いの場所となり、病院施設の周りも一昔前とは大きく様変わりを致しました。

本院施設も経済成長とともに診療科目も増え、施設の建て替えや改築を経て現在のように高度  
な医療設備を常備し、先進的医療技術をもったスタッフを有する画期的な医療施設になっており  
ます。地域としても身近にこの様な医療施設があることは大変心強く、安心感と同時に信頼感が  
生まれるものと確信致しております。

平成4年8月には東予救命救急センターが開設され新居浜市だけでなく近隣市町村の住民の  
救命医療施設として利用され、生命を守る重要な施設となっております。これからも地域住民の  
医療をまもる施設として御助力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、当施設が今後とも地域に根差した医療施設として、また、東予地域の中核医療施設と  
してますますご発展を遂げられますとともに、病院関係・医療スタッフのみなさまのご健康とご  
活躍をお祈り申し上げまして、開設記念のご挨拶と致します。



売店での鈴木千春さん

## ② 売店を振り返って

鈴木 千春

県立新居浜病院本院開設60周年、東予救命救急センター開設20周年、誠におめでとうございます。

売店業務を通して、地域医療の中核病院としての大変さ、職員皆様の患者様を中心とした治療・看護に対する熱心な姿勢を、身近に感じることができました。職員皆様

の頑張りを力に、コンビニ化へ移行する本年3月まで親子2代にわたり50年近く勤めさせて頂きました事に厚くお礼を申し上げます。

思えば、義母は古い病棟の長い廊下を押し車一つで病室を廻りながら、患者様のご要望に相應る販売から始めたと聞きました。時は流れ、義母の闘病に依り、義母がたゆまない努力により築いてきた患者様や病院職員のための売店を、私が引き継ぐこととなりました。この時、売店利用者の皆様へは、「笑顔・親切」をモットーに努力しようと思いました。

売店の状況は、人事異動で担当者が変わる度に、変化した様に感じています。無論、病院内売店ですから、ご要望は承知致しておりました。氷の自動販売機設置、医薬品点数外商品販売、たばこ販売停止等です。時代の変化と共に病院環境、経費節減意識が高くなり、段ボール、缶、ビン、ペットボトル、燃えるゴミ一切受け入れ出来なくなりました。又、業者のたび重なる倒産や廃業で、仕入れに東奔西走したり、共に働く仲間をガンで亡くしたりと・・・走馬灯の様に色々な事が浮かんで来ます。その中でも、いつも細やかなお声掛けやご指導を下された北條副院長様にはこの機会を借りて、心からお礼を申し上げます。

ところで、病院職員有志による毎朝の玄関前の清掃奉仕、毎週水曜日には愛媛銀行さん提唱のふるさとクリーンデーに賛同した病院周辺道路のごみ拾い等、四季折々の美しい病院の佇まいが来訪者の癒しとなり、地域の方々に愛されている病院ともなっているように思います。地元民として、感謝で一杯でございます。

この度は、長年にわたる売店営業の功績により感謝状贈呈について諾否の御照会がありました。鬼籍の母ともども病院の「ホット（癒しの）ステーション」的役割を担わせて頂き、思いもよらぬお気遣いを賜りましたことに感謝いたしますと共に、県立新居浜病院の益々のご発展と病院職員皆様のご多幸を祈願申し上げます。

### ③ 医療スタッフの思い出

私たちスタッフは外来、入院、外来クラーク、病歴管理室、日宿直合わせて36名で、県立新居浜病院の医事の委託業務として受付業務、会計業務、クラーク業務、カルテ管理を行っています。

4月から(株)ニチイ学館が受託して、早3ヶ月が経ちました。当社に決まった時、スタッフはかなり動揺していましたが、結果ほぼ全員残る事ができました。一緒に仕事ができる事に感謝しながら、これからもがんばっていきたいと思っています。



(株)ニチイ学館  
保利 妙子



業務のなかでも、特に受付は大切です。患者さんは誰もが不安な気持ちで来られます。その不安を取り除いてあげるためにも、私たちは、患者さんのお話をよく聞き、丁寧に解りやすく対応しなければなりません。少しでも早く、診療科にカルテを届け、診察してもらえることが安心につながります。その為には、スタッフ一人ひとりのスキルアップが必要になります。特に会計入力、正確さと迅速さが

求められます。患者さんにご迷惑をおかけしないように、これからも努力したいと思っています。

医療事務は、一般に受付をして会計をするイメージがありますが、レセプト(診療報酬の請求)も大切な業務です。外来と入院一人ひとりの診療内容の確認を行い、病名やコメントを先生にお願いしています。精度をあげて、請求もれのない適正なレセプトができるように心がけています。



私が、22年間この病院で経験した中で、まだコンピューターも導入されていなかった頃は、外来カルテの表紙も手書き、会計も薬価本を片手に電卓やそろばんで計算し、レセプトも全件手書きで、本当に忙しかったのですが、この仕事が大好きだったので、毎日が充実していたように思います。

そんな忙しい日々の中、患者さんに「いつもありがとう」と言葉をかけてもらい、逆に元気をもらった事がありました。

日々、何げなくかけている言葉も患者さんにとっては、嬉しかったり、逆に不安な思いをさせてしまったりしているかもしれませぬ。患者さんの不安な気持ちが少し

でも、和らげるように、スタッフと協力しながら、笑顔を忘れず、サービスの向上に努めたいと思っています。これからも、よろしく願いいたします。

